

「6月号特集「コミュニケーション・フォーレストリー」を読んで」
 ■今回の特集は、興味のある話題の一つでした。高望みせず、今できることを各個人がやる（または、知る）ことが大切だと改めて考えました。人ごとではなく、自分のため/自分たちのため/自分たちの子のため、と考え、今後もこのテーマについて興味を持ちます。
 （茨城県・女性・法人職員）

■震災後もくじけることなく、国際交流や国際理解教育に取り組んでいる宮城県仙台東高校のグローバルな教室づくりには驚かされた。単に英語学習だけでなく、諸外国が抱えている問題をみんなで考え合ったり、日々世界とつながる大切さを意識しながら懸命に勉強している姿に感心した。私も小学校教諭をしていた折、国際理解担当者として、諸外国の子どもたちと交流してきたが、こういった学習ができるだけ多く、どここの学校にも取り入れられ、諸問題について真剣に考える機会ができればと願っている。
 峯野富也（岐阜県・62歳・男性・音楽家）

「7月号特集「国際協力の経験を日本の復興へ」を読んで」
 ■戦後の復興が諸外国からの支援に依るものだとわかっていても、現在の、やはり国際協力は、こちらからの援助が大きいと感じていた。しかしこの震災後、相互協力（おたがい様）意識、そして文明による日常生活のもろさを痛感した。これからの生活は、地球規模、必然の協力関係を一人一人が身にしみて感じる。
 坂田恵（栃木県・53歳・女性・主婦）

■今号は表紙からインパクトが強くて、ぱっと手に取りました。特集の中で、ソーラーランタンのように途上国支援での経験が被災地支援に生きたというのすばらしいと思います。復興には日本の総力が必要と聞きますが、JICAの持つ専門性、経験をぜひ活用し続けてもらいたいです。
 （島根県・22歳・女性・会社員）

本誌へのご意見・ご感想や
 JICAへのご質問を
 お寄せください。

プレゼント
 付き

添付のアンケートはがき、Eメール、FAXから、本誌に対するご意見やご感想、またJICAへのご質問を、氏名・住所・電話番号・職業・年齢・性別・ご希望のプレゼントを明記の上、お送りください。ご記入いただいた個人情報統計処理およびプレゼント発送以外の目的で使用いたしません。当選者の発表は発送をもってかえさせていただきます。

◎応募締切：2011年10月15日

Email: jica@idj.co.jp
 FAX: 03-3582-5745 (『JICA's World』編集部宛)

- ① エチオピア・コーヒー豆のストラップ
- ② 書籍『ルワンダに教育の種を
 内戦を生きぬいた女性・マリールイズの物語』(p37参照)
- ③ 書籍『THANK YOU WORLD
 世界の国旗と「ありがとう」』(p37参照)



①



③

②

本誌をご希望の場合は
 下記方法で
 お申し込みください。

申込方法

本誌をご希望の方には、送料をご負担いただく形でご送付いたします。巻末の払込取扱票に、氏名・住所・電話番号・ご希望の送付期間・送付開始月を明記の上、指定の金額を郵便局でお支払ください。入金の確認後、発送手配をいたします(入金から1週間程度かかることもありますのでご了承ください)。複数冊、またはバックナンバーをご希望の方は送料が異なりますので、下記までお問い合わせください。

申込先 (株)国際開発ジャーナル社 業務部(発送代行)
 住所 〒107-0052 東京都港区赤坂2-13-19 多聞堂ビル
 TEL 03-3584-2191
 FAX 03-3582-5745
 Email order@idj.co.jp



次号予告 (2011年10月1日発行予定)

イラク

世界第3位の原油埋蔵国であるイラク。ジャーナリスト・池上彰さんの現地取材報告とともに、イラクの現状とJICAの協力について紹介します。